

～野洲川下流地区田園空間博物館を事例として～

立命館大学理工学部 学生員 ○相羽 佑輔
立命館大学理工学部 正会員 笹谷 康之

1. はじめに

エコミュージアムの概念を取り入れ、地域を丸ごと博物館とする農林水産省の構想で田園空間博物館事業が進められている。事業内容は農業基盤整備等のハード整備と地域住民による主体的な運営管理であるが、後者は上手く進められてないのが現状である。そこで本研究では、野洲川下流地区田園空間博物館を事例に、WebGIS を用いた田園空間博物館の主体的運営を支援するシステムの提案を目的とする。

2. 田園空間博物館の運営主体・利用者のニーズ

運営主体として「学校」「住民活動団体」「旧集落住民」を抽出し、また、「都市住民」を利用者として抽出する。田園空間博物館の運営を協議する住民ワークショップや、住民活動団体のアンケート・ヒアリング調査結果をまとめた報告書、また田園空間博物館検討会より各主体のニーズと田園空間博物館における役割を整理し、表－1に示す。

表－1 各主体のニーズと役割

	ニーズ	役割
旧集落住民	・空き農地の有効活用 ・地域を知る ・各集落の特色付け ・集落PR、特産品販売	・地域学習の受け入れ ・都市住民との交流(案内役) ・地域資源の管理・保全等の地域づくり活動
住民活動団体	・会員の固定化、会員の確保 ・活動資金の不足、時間・場所の確保 ・後継者の不足 ・活動のPR・情報発信 ・連携・情報交換・交流	・地域学習等のサポート ・人材、ボランティアの提供 ・旧集落と連携した地域づくりへの貢献
学校	・総合的な学習の時間 ・地域学習(歴史・環境・文化など) ・地域住民による地域学習のサポート	・地域学習を通じた、田園空間博物館の活動への参画 ・地域住民との交流
都市住民	・観光、周遊 ・自然に触れる機会 ・農業体験	・観光、特産品購入 ・農業体験を通じた地域住民との交流

3. 田園空間博物館の課題

野洲川下流地区田園空間博物館では、総合案内所のアクセス性の悪さから、外部からの集客が期待できず、その活用方策が課題となっている。そこで、当田園空間博物館では、地域住民に焦点を置き、地域内の学校が活用する地域の教育拠点として、住民との交流を通じた景観・環境保全等の活動に取り組むことが適切であると考えられる。

また、表－2に示す田園空間博物館の先進事例より、デジタルエコミュージアムのように田園空間博物館の関係主体間を結ぶ情報ネットワークの必要性があり、外部への情報発信により広報と地域住民への意識づけがなされ、遠州南部地区のように学校との連携が交流促進に効果的であることがわかる。

4. WebGIS を用いた田園空間博物館支援システム

以上を踏まえ、WebGIS を用いた田園空間博物館支援システムを構築した。WebGIS により空間情報を提供し、各運営主体自ら情報を登録し、活用することで主体的な参画を促すことができる。

システムの利用イメージを図－2に示す。住民活動団体、旧集落住民、学校といった WebGIS に情報の登録が行える「登録可能ユーザー」と都市住民等の「閲覧専用ユーザー」に大きく分かれる。学校は地域学習の結果を蓄積し、季節や年ごとの変化を記録して、地域住民等に広く発信することで情報共有を図る。住民活動団体や旧集落住民からは活動内容のPRや地域学習をサポートする人材情報を提供し、

表－2 先進事例

	山元巨理 田園空間博物館	北はりま 田園空間博物館	遠州南部 田園空間博物館	いわて デジタルエコミュージアム	野洲川下流地区 田園空間博物館
対象地	宮城県山元町、 巨理町	兵庫県西脇市、中町、 加美町、八千代町、 黒田庄町	静岡県裾野町、 浅羽町、大須賀町	岩手県	滋賀県守山市、野洲町 中主町
目標	地域の情報バンクと なる博物館	地域住民による 主体的な管理運営	都市住民との交流促進	情報発信による環境保全 への関心の高まり、 地域づくりへの貢献	学校を活用した 地域の情報拠点
運営主体	地域住民、住民活動団体 メンバーから成る利活用団体 野外くまのりん友の会	地域住民、住民活動団体 メンバーから成るNPO法人 北はりま田園空間博物館	地域住民、住民活動団体		旧集落住民、 住民活動団体、学校
情報発信	地域外 ○ 地域内 ○	○ △ ○	△ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○
学校と連携	○	○	○	○	○
住民主体の運営	△	○	△	○	○

各主体間の連携、情報交換に役立て、また地域学習結果を活用する。さらに都市住民に対し、活動内容等の地域の魅力を発信することで、田園空間博物館に訪れるきっかけを作る。行政は活動内容を把握し施策に活かすとともに、所有する地図データ等を提供する。また研究機関・専門家からは、地域学習の調査結果に対して専門的なアドバイスを行う。



図-1 WebGIS インターフェース

WebGIS インターフェースは、図-1 のようになっており、右側のメニューフレームで情報の登録・検索を行う。テキストの他に写真を登録することも可能である。またマップ上に表示された各施設等のアイコンをクリックすることで、関連する Web ページにリンクすることができ、登録情報だけでなく、地域内の多様な情報が得られる。

また構築に際し、GIS データの整備・管理・更新・交換等が、低コストかつ効率的に行える地理情報標準への準拠を考慮した。

5. おわりに

本研究では、田園空間博物館の運営主体として、「学校」、「住民活動団体」、「旧集落住民」が有力であることを明らかにし、田園空間博物館の課題として、整備事業により整備される施設のソフトな利用方法の検討や、地域住民による主体的な運営方策の不足を挙げた。この解決策として学校における地域学習での利用を考え、各主体が連携し情報共有を図るシステムの利用イメージを示した。

この結果をもとに、WebGIS を用いた田園空間博物館の支援システムを構築し、各主体のニーズ、シーズに沿って、地域学習結果、地域学習をサポートする人材、旧集落や住民活動団体の広報の 3 項目について登録可能にした。

今後の課題として、提案したシステムをもとに実際に野洲川下流地区田園空間博物館における情報システムを運用し、実用性を検証する必要がある。

参考文献

- 1) 野洲町：誰もが住民活動を気軽にしよう～住民活動モデル調査から～, 2002
- 2) 野洲川下流地区田園空間博物館第 3 回検討会資料

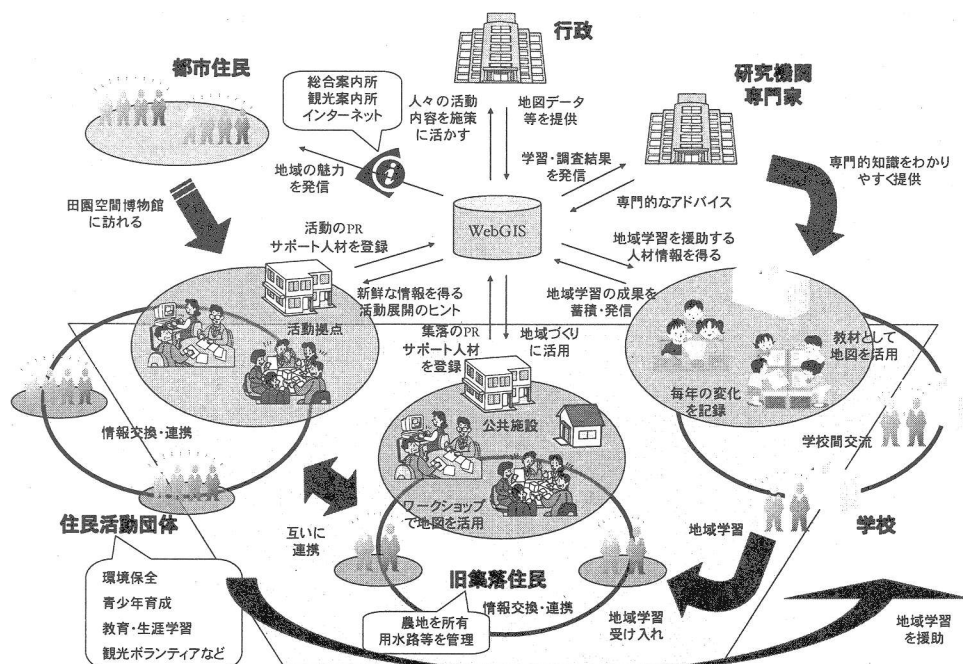


図-2 システム利用イメージ